

数学科シラバス（第1学年）

指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・ 単元毎の小テストにより、計算力の向上を目指します。
- ・ 長期休業中の補習を実施します。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・ 式、表、グラフなどの様々な表現様式を用いて、事象の変化の様子や特徴を捉え、思考力・判断力・表現力を育成します。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・ 問題集やノートを定期的に評価し、学習習慣の定着を図ります。
- ・ デジタル教科書を使用し、指導の工夫を図り、意欲を向上させます。
- ・ 身近な課題を積極的に活用します。

評価の観点と評価規準

評価の観点	評価規準	評価の資料
主体的に学習に取り組む態度	A：授業に意欲的に参加し、提出物を期限内に提出し、その取り組みも優れている。また既習事項を数理的に捉え、分析できる。 B：授業に参加し、提出物に取り組んでいる。既習事項を俯瞰的に捉えられる。 C：授業に積極的に参加していない又は提出物をしっかりと取り組めていない。既習事項の苦手部分を把握できる。	授業態度 ワーク・ノート・宿題等 単元ごとの分析シート
数学的な思考・判断・表現	A：数学的な見方や考え方が十分に身につけており、根拠に基づいて説明し表現することができる。 B：数学的な見方や考え方が身につけている。考え方を表現できる。 C：数学的な見方や考え方が身につけているが、努力を要する。	授業中の発表・取り組み テストの得点 小テストの得点 解き方の工夫
数学的な知識・技能	A：知識を用いて数学的な表現や処理を行い、活用することが出来る。 B：数学的な表現や処理の仕方が身につけている。知識を備えている。 C：数学的な表現方法や処理の仕方が身につけているが、努力を要する。	授業中の発表・取り組み テストの得点 テスト直し 説明力 （解き直しレポート）

各観点の達成状況 A 85%以上 B 45%以上 C 45%未満

原則、上に定めた基準で評価します。達成状況によっては基準が下がる場合があります。

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A^{マル}O=5点、A=4点、B=3点、C^{マル}O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
^{マル} A ^{マル} O ^{マル} A ^{マル} O	15点	^{マル} A ^{マル} O ^{マル} A ^{マル} A	14点	/	/	5
^{マル} A ^{マル} O ^{マル} A ^{マル} A	13点	^{マル} A ^{マル} A ^{マル} A ^{マル} A	12点	^{マル} A ^{マル} O ^{マル} B ^{マル} B	11点	4
^{マル} A ^{マル} B ^{マル} B ^{マル} B	10点	^{マル} B ^{マル} B ^{マル} B ^{マル} B	9点	^{マル} B ^{マル} B ^{マル} C ^{マル} O	8点	3
^{マル} B ^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O	7点	^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O	6点	^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C	5点	2
^{マル} C ^{マル} O ^{マル} C ^{マル} C	4点	^{マル} C ^{マル} C ^{マル} C ^{マル} C	3点	/	/	1

学習内容と評価のめあて

月	学習内容	指導のめあて
4 5	移行内容 整数の性質 第1章 正負の数 ・正負の数 ・加法と減法 ・乗法と除法 ・正負の数の利用	○ 具体的な場面を通して正の数と負の数について理解し、その四則計算ができるようにするとともに、正の数と負の数を用いて表現し考察することができるようにする。
6 7	第2章 文字と式 ・文字を使った式 ・文字式の計算 ・文字式の利用	○ 文字を用いて数量の関係や法則などを式に表したり式の意味を読み取ったりする能力を培うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。
9	第3章 方程式 ・方程式とその解き方 ・1次方程式の利用	○ 方程式について理解し、一元一次方程式を用いて考察することができるようにする。
10 11	第4章 比例と反比例 ・関数と比例、反比例 ・比例の性質と調べ方 ・反比例の性質と調べ方 ・比例と反比例の利用	○ 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。
12	第5章 平面図形 ・図形の移動 ・基本の作図 ・おうぎ形	○ 観察、操作や実験などの活動を通して、見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりして平面図形についての理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。
1 2	第6章 空間図形 ・いろいろな立体 ・立体の見方と調べ方 ・立体の体積と表面積	○ 観察、操作や実験などの活動を通して、空間図形についての理解を深めるとともに、図形の計量についての能力を伸ばす。
3	第7章 データの整理と分析 ・データの分析 ・データの活用 ・ことがらの起こりやすさ	○ 目的に応じてデータを分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断できるようにする。また多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができるようにする。